



がらがらどん

ニュースレター

2021年2月(号外)

発行；小倉バプテシ教会 牧師；山本龍一郎

編集担当；嶋田涼美(責任者/2月号担当)

大庭博子・山本佐智子

Tel；093-521-2862

Email；kokuracc@yahoo.co.jp

2021年2月の「がらがらどん」は中止になりました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言が発出されました。この状況から、お休みさせていただきました。

2月のテーマ

†「レントからイースター」

◎「勇気と希望」コロナ禍の今、自宅で過ごす絵本の時間。

今月の絵本



むねあかどり

作 ラーケルレーヴ
文 中村妙子
絵 高橋ユリ

2012年3月のテーマで取扱かって、それ以来毎年飛石に挙げられています。主テーマにまたサブテーマに。

特伝でお招きした、久留米教会の吉田晃見先生や「聖書教育」の奥田厚子姉からも紹介された、懐かしい作品です。(S・S)

メッセージ「レントからイースター」

わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい。」(マタイ 26:38b)

イエス様の復活祭を迎える日まで40日間を受難節といます。信仰心のある人はその期間、イエスの苦難と

忍耐を思いながら過ごします。イエス様は神と等しい方でありながらも、人であったゆえに十字架の死を受けることを恐れて苦しめられました。人は本当に苦しく寂しい時、誰かに支えてもらったり、祈ってもらいたい、究極的に言えば、神様に助けてもらいたいと思うものです。イエス様は、非常な不安と恐れの中に駆られた際、弟子たちに傍にいてほしいと懇願しました。その後、イエス様は私たちの罪の身代わりとして十字架で死に、墓より復活されました。人の痛みや苦しみに寄り添うことができる人は幸いです。そして、その人の傍にはイエス様がいつもおられます。



牧師；山本 龍一郎

【3本の木】

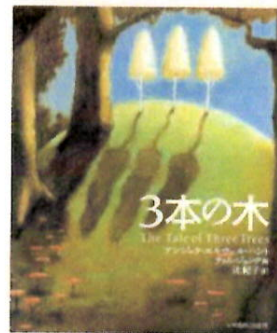
具志堅すみれ

西南女学院中学3年

私はがらがらどんで、たくさんの本と出会い、いろいろな事を学びました。

私が今でも忘れられない絵本はいくつかありますが、一番は「3本の木」です。聖書のローマの信徒への手紙12章11~12節には「怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。」という箇所があります。

この本と、この聖句から私が学んだことは、絶望の底に突き落とされても希望と祈りを胸に前を向いて進んでいくことの大切さです。神様はどんな苦難でもいつかそれを素敵な形で私たちに返してくれる。その日の為に、今日の苦難があると考えると、もう少し頑張ってみよう、と思えるようになりました。私もいつか、「3本の木」の3番目の木と同じように、神様がこの世に私を送ってくれた目的を全うできるようにこれからも頑張っていきたいと思えます。



アンジェラ・エルウエル・ハント作
ティム・ジョンク画
辻紀子訳
いのちのことば社



ヴァン・ダイク：原作
中井俊巳：文
おむらまりこ：絵
新教出版社

あの「3人の博士」のよおに星に導かれ、イエスさまの誕生に駆け付けた、アルタバンでした。三つのプレゼントを携えて。しかしイエス様におめにかかり、み言葉を頂いたのは、ゴルゴダの丘でした。

「あなたが、この人たちにした愛の行いは、わたしにしたのと同じなのです。」

(マタイ 25:40)より